

「監督、コーチのみなさんへ」

～厳しさの質の向上について～

(JDBA 理事長通達)

昨今、スポーツ指導方法について、指導者が適切に対応しているかどうかが問われています。日本ドラゴンボート協会でも指導者である監督やコーチが「勝つため」だけを目標にして、選手等の意思や意向をまったく尊重しない「勝利至上主義」に陥っていないか、どうか今一度、再確認していただきたいと思えます。

元来スポーツをするメリットは、法令や規則を順守する中で、人間同士がコミュニケーションを図ったり、技術の向上を目指して努力する中で「人格形成や心の成長」を図っていくことです。すべてのスポーツにおいて、1位を目指す権利はだれにも存在しますが、最終的に優勝する人は全体の中のほんの僅かな人たちです。

1位になれないから「ダメ」ではなく、勝利に向けて日々練習し努力するその過程を重要視し、連帯感を持ってそれぞれがより大きな器になっていくことに価値を置いていくことは、スポーツ精神の原点でもあります。

過日のカヌーのドーピング違反などの様に、勝利の為に法令や規則違反を犯してまで勝利に執着するやり方は相手を思いやるスポーツ精神に反しています。

試合が終われば「ノーサイド」で敵も味方もなく、お互いを尊重し尊敬しあう関係を構築していくことです。

たとえ試合に敗れたからと言って感情的になったり、だれかを責めたり、個人の尊厳を無視して罵倒したりすることなどはもってのほかです。

むしろメンバー同士が冷静になってお互いを見つめ合い、試合を振り返って将来に向かって建設的な意見を出し合い、話し合う環境づくりがとても重要です。

各チームの監督、コーチなど指導者の皆様におかれましては、パワハラやセクハラは勿論、言語道断ですが、常にメンバーの意見を吸い上げる雰囲気づくりと体制づくりを構築することに力を注いでいただき、アマチュアスポーツらしく、厳しい指導の中にも優しさと楽しさが溢れるチームづくりを目指し、それを実行していただきたいと思います。強くお願いする次第です。

以上

2018年6月2日

一般社団法人日本ドラゴンボート協会

理事長 櫻井 顕一